



# ネットワークの中立性について

ヤフー株式会社  
法務部

Feb 28, 2007



# 1. 主要な課題

---

- 利用が自由なインターネット空間で確保されてきた競争環境を前提として、公正競争の確保を通じて、様々なサービスの登場機会を確保すること(イノベーションの確保)と、適正価格での提供を利用者に確保する環境を維持すること
- 市場における公正競争確保を課題とする限り、我が国の市場実態を踏まえたネットワークの中立性議論が必要



## 2. 市場環境等の変化

- 垂直統合型ビジネスが目指すものは何か？
  - 何のため(誰のため)の垂直統合型ビジネスか…携帯はなぜコンテンツが貧弱だったのか？
    - ◆例:通信機器、通信、コンテンツ配信が一体となったサービスは誰のため？
    - ◆短期的モデルか長期的モデルか？ - 携帯モデル、音楽配信モデル
    - ◆余分な機能が統合される？ - 認証、決済
    - ◆プラットフォーム型は参入を規制する方式にもなりうる
  - 垂直統合できる分野は限定的(通信及びソフトウェアの領域が中心):競争阻害要因大。
  - 各水平領域での公正競争の確保が必要
    - ◆収益性の高いレイヤーの売上で収益性の低いレイヤーを補填することは競争阻害要因。
  - 各レイヤー機能のモジュール化とその自由な組み合わせは、「統合」型とは異なる。
    - ◆自由な組み合わせ = 選択、を利用者に付与することがビジネスイノベーションにも繋がる。
- NGNの懸念点
  - 競争阻害要因は本当にないのか未検証。
  - QoSは誰のため？
  - 認証や決済は誰のため？
  - 必要だと思って多大な予算をかけて高速道路を造っても、その恩恵を利用者は感じられるのか？
    - ◆選択の自由、サービス内容の明確化、料金設定根拠の透明性確保



## 3. 基本的アプローチについて

---

- 「ネットワーク利用の公平性」と「ネットワークのコスト負担の公平性」を基本的な論点とすることに賛成
- 何を所与の条件として公平性を議論するかが問題



## 4. ネットワーク利用の公平性

- 参入障壁を高くしない: 自由なビジネス空間の維持、参入コストを高くしない。
- 各レイヤー間のインターフェースのオープン化
- プラットフォーム機能のオープン性の確保
  - ◆ あるレイヤーの機能が他のレイヤーの機能を実質的に制御、支配するのであれば、(特に下位レイヤーでそれが行われると) 結局、公正な競争が阻害され、技術の多様性、進展のスピードについても阻害することになる。
  - ◆ プラットフォームが基本的にオープンに利用されることに加え、他のプラットフォームに対しても等しくオープンであるべきで、特定のプラットフォームを利用したことにより、あるレイヤーにおいて何らかの制限・制約がかかるようなことがあってはならない。
- アプリケーション等の利用の同等性の確保
  - ◆ 「特定のアプリケーションの利用がネットワーク全体に著しい影響を与えていることを理由に利用制限できるか否か」については、当該判断をするための調査の方法や実施基準を明確にし、さらに技術革新により吸収できるような影響ではないかどうかについても併せて明確にしてから議論をすべきで、現時点では、明確な根拠をもって「特定のアプリケーションの利用がネットワーク全体に著しい影響を与えている」とは判断できていない。
  - ◆ 具体的危険性がないままに利用制限的行為を取るとは公正競争を阻害する危険性がある。
- 端末のオープンな接続の確保
  - ◆ 技術の進展、多様なビジネスの発展のためにも、ネットワークはオープンであるべきであるので、可能な限り(他に悪影響を及ぼさない= ネットワークに損傷を与えない限り) 多様な端末が接続されることが望ましい。



## 5. コスト負担の公平性

- コスト負担を公平性にすべきだという総論は賛成
- 必要だと思って多大な予算をかけて高速道路を造っても、その恩恵を利用者は感じられるのか？
  - ◆ 必要なコストであること(誰の必要性に基づいてコストが発生したか)
  - ◆ コストが利用者にとって透明であること
  - ◆ 負担の公平性が感じられる料金体系であること
  - ◆ 複雑になる通信サービスの課題 = 「通信」は「適合性の原則」を適用すべき分野なのか？
    - サービスの内容、品質が不明
    - 何のための費用を負担しているか不明
    - 負担の公平性はどうすれば確保できるのか、利用者視点での検討が必要
- コストを捕捉しやすい部分やコスト負担をしやすい部分に負担が集中するのは不適切
- 料金体系の設定が競争阻害的にならない。
  - ◆ コンテンツプロバイダー等へのコスト転嫁は、新しいサービスの参入障壁にはならないか。
- 様々なコンテンツや利用方法が存在していて、誰のどんなサービスの、どのような利用がコスト負担に結びついているかを明確にできるのか？
- 技術革新によるコスト吸収の可能性についても不明。



## 6.まとめ

---

- 議論を早く開始しておくことは、今後の公正競争の確保のために不可欠。しかしながら、データが十分でない部分も多く、正しい議論をしていくためには、データを収集し検証をしながら検討を積み重ねていく必要がある。



**LIFE ENGINE™**